

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2570101028		
法人名	株式会社 関西サンガ		
事業所名	琵琶湖大橋翔裕館グループホーム ユニット1		
所在地	滋賀県大津市本堅田4丁目4番18号		
自己評価作成日	平成27年1月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市駒井沢町343番地		
訪問調査日	平成27年2月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

静かな住宅地に立地しており、琵琶湖や保育園などが近くにあること、街にも出かけやすい環境を活かし、個別に散歩や外出支援を楽しみ、充実した生活を送っていただけるよう支援しています。また、御本人の気持ちを大切に自分らしく生き生きと過ごして頂くために、一人一人の個性を大切にされた支援に努めています。安心して過ごせる環境と「馴染みのある」職員との信頼関係の構築に努め、居心地のよい我が家と感じていただけるよう、利用者様と家族様の声を聞き、支援に活かしていくことを職員全体で取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

琵琶湖大橋翔裕館のグループホームは、2階建ての中に3つのユニットがあり、それぞれ1丁目・2丁目・3丁目に分かれて9名ずつが住んでおられる。施設内は静かで清潔感があり、ゆったりした雰囲気がある。利用者は自分の潜在能力を活かして、お互いが助け合って生活されている感じを受けた。職員の接遇教育も行き届いている。また、地域に対して、AEDの提供や救急蘇生の講習会など職員の力や事業所の力を活かした取り組みにも力を入れている。事業所の近くにある保育園とは、利用者が手縫いした雑巾(絵入り)を提供して喜ばれたり、運動会のリハーサルに招かれて感動されたり、園児の訪問でイキイキした表情をされるなど双方にとってよい交流ができています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	項目
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人権を尊重した生活環境の提供」「地域とのふれあいを大切にした密着型の家づくりを目指す」等をあげ、職員に周知徹底している。	各職員は法人の理念に基づいた「目標の設定」と評価・「接遇」の自己評価を年2回行い、同時に管理者による面接評価も行っている。特に接遇には力を入れており、日々のケア場面で気づきがある都度振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会運営に場所の提供等の協力を行ったり、月1回の公園掃除等に参加させて頂き交流を継続している。近隣の保育園との交流も継続的におこなっている。	自治会とは文化祭等の交流の他、救急蘇生の講習も担っている。毎月、地域の介護者の集いを通して馴染みの関係も出来ている。保育園とは手縫い雑巾の提供や園児との交流を通して双方にとってよい関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口・AED設置等、地域に発信し、相談や見学等、随時対応させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に地域包括センター、民生委員、家族代表、当施設職員等が参加し様々な意見交換を行い、施設運営に生かしている。	看取り事例の報告と意見交換を通して今後に向けた方向づけと理解に繋がっている。参加者からボランティア活用の提案により協力者の数は増えてきている。会議の内容は、職員で共有するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大津市担当窓口の介護保険課に各種相談や報告を行い、有様な関係構築に努めている。	包括支援センターには、困難事例の相談を行って助言を得ている。感染症の研修など情報ももらって参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の機会を設け、全職員に周知徹底し、十分に理解した上で取り組んでいる。事故を防ぐために緊急性のある場合は十分な検討と協議を重ねた上で一時的に行う場合もあるが、必要が無くなった時点で解除している。	原則、施錠はしない方針で、見守りと一緒に行動するように心がけている。しかし、万が一に備えてユニットの玄関にセンサーの設置を検討中。利用者の状況によって、一時的に安全策をとることもあるが、運営推進会議等で検討して実施している。現在は、対象者はいない	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修、あるいはユニット内で伝達研修を行い職員全員がしっかり理解し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するマニュアルがあり、いつでも閲覧できるよう周知徹底を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容及び重要事項の説明を十分に行い、理解納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御入居様は日常的に、御家族様には面会時やアンケートにてご意見、ご要望を頂戴している。アンケート結果は集計し、運営推進会議等で内容について話し合い、運営に反映させている。	利用者や家族とは気軽に話し合いができるよう心がけている。例えば「食べた物を書いてほしい」といった要望に応えたりアンケートから食事メニューの表示や各勤務帯の職員が解るように写真を掲載するなど意見を改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に有様な関係性に努め意見や提案を聞き取り、必要に応じ随時面談を行っている。責任者会議の場で情報の共有を図り、検討を行っている。	毎月、ユニット毎のカンファレンスを通して、休憩時間の確保や介護度に応じた増員などが行われている。職員からの聞きとりにおいても、意見や提案は活かされていると聞きとった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員個々の状況を把握し、必要に応じ面談を行いながら、やりがいや向上心が持てるような職員の教育や環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体研修・ユニット内研修・ステージに合わせたグループ研修等、現場の職員のニーズに合わせて様々な形で職員教育を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設に見学に行ったり、地域の医療介護ネットワークや研修会に参加し、交流や意見交換を行うことにより、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを通してご本人の思いを受け止める事で信頼関係を築き、ご本人の生活歴や趣味、思いを知り得たうえで情報を共有し有良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いを傾聴し、サービスに何を望んでおられるかを知るように努めている。面会時には出来るだけ日頃の様子等を詳しくお伝えし、家族様のご意見、ご要望に耳を傾け良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設利用前に使用されていたサービス内容状況を把握するとともに、本人と家族様の現在の思いや状態をしっかりと認識し、サービスを提供させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活を共にすることによって良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様が面会時は利用者と御家族だけではなく職員も一緒に日頃のご様子等をお伝えし、御家族様と一緒に外出先を考えるなど良好な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人が大切にされてきた馴染の家具類や小物を持ち込み、面会者も受け入れ等努めている。また、御家族様にもご協力いただき馴染の物を取り入れた環境作りに努めている。	これまで楽しまれていた球場行きへの同行や馴染みの美容院や喫茶店、神社へのお参りなど可能な限り支援に努めている。友人や家族の訪問では、居室でのお茶や食事、散歩など自由にくつろげるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人を理解し御入居者同士が良好な関係を構築できるよう仲立ちし支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、ご本人の生活歴や趣味、嗜好等の情報を把握しご本人本位の支援を行っている。	努めて懐かしい生活を引き出して把握し、外出やしたいこと、食べたい物等、添えるようにしている。計画書1表の意向欄には、家族の代弁を含め、意向が把握されて記載されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入所される前に利用されていたサービス事業所と連携を図り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設入所されるまでのサービス事務所やケアマネ等と連携、把握に努め、御家族様にもご協力いただき把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット全職員でアセスメント、モニタリングを行い、常に現状に即した計画作成を行い、三か月ごとの見直しを行っている。	家族の訪問時など、ケア計画の内容に対する意見や要望を聞き、プランに反映するようにしている。またそれらをユニット毎の全職員で評価検討して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを活用し常に情報を共有している。また毎月カンファレンスにおいて個々のアセスメントを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族様の声、職員の提案を活かし、柔軟なサービスが提供できるよう、臨機応変に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの活用や保育園との交流により、ご自身の生活を生き生きと過ごしていただけるよう、心が満たされた豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族様が希望される医療機関にて対応している。協力医療機関との連携を行い、定期的訪問診療や必要に応じ協力医療機関へ受診援助も行っている。	以前からのかかりつけ医や、協力医療機関への受診は、ほぼ同行している。受診時の状況は家族に報告されてる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃よりの職員間の情報の共有をはじめ、必要に応じて情報や気づきを家族様や訪問診療等に報告し、適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御入居者が入院された際、病院関係者へ施設での生活状況を伝達し、環境の変化にも対応できるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期を迎えた方には、家族様はじめ医療との連携を十分に行い、事業所で出来ることを理解いただき、方針を共有し医療と連携して支援させていただいている。	重度化した場合や終末期は、状況を見て看取りに関する方針を文章化したもので確認している。医師の往診と家族の泊まり込みにより穏やかな看取りが実践されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し急変時の対応の研修や救命講習等を行い、マニュアルを全職員に周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ほぼ毎月消防訓練を行っており、年に数回消防署立ち合いにて訓練を行い指導も頂戴している。日勤・夜勤それぞれの想定において訓練を行い、いつでも対応できるよう職員教育を行っている。	昼間や夜間の他、抜き打ちでも避難訓練が行われている。関連法人内での連携体制もできている。備蓄は、近くの本社で確保されている。マニュアルも作成できている。	119番の直通連絡で、消防団に無線連絡が入るシステムになっているが、近隣住民の協力が重要であることから、住民参加による訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシー保護の研修を施設やユニット内で行い秘密義務厳守も明確に求めている。細心の注意を払い自尊心を損なわない言葉のかけ方や対応をしている。	できる事は基本見守りを行っている。自尊心を大切にし気持ちよくすごせるような言葉かけ等さりげないケアの工夫に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを多く持ち、御入居者様の気持ちを最優先に考え自己決定できるような環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心ではなくご入居者様一人一人のペースに合わせ、個別ケアにて希望に沿えるよう臨機応変な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問美容を利用したり、その人が好まれる衣類の選択等、いつまでも日々身だしなみが出来るような支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本、業者に発注し届いた食材を調理提供している。毎週、火金はユニットごとに御入居者様とメニューを決め自立支援の一環として一緒に料理を行っている。	火金はユニット毎にお楽しみ献立で、他は業者の食材をアレンジして調理している。時間・場所は、本人の思いに合わせ、形態も個別に食べやすい工夫をしている。食欲がでないときは、気分を変えるために散歩等の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に食事量、水分量の記録、把握に努めている。水分摂取があまりできていない方にはストロー付ジュースやトロミを付け介助し摂取していただけるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎後、口腔ケアの声掛けや介助をさせていただいている。義歯の方は夕食後、預らせて頂き義歯洗浄剤で消毒している。訪問歯科と連携し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄感覚や排泄状況を把握し自立に向けた支援に努めている。日中はなるべく布パンツを使用していただき汚染がないようこまめにトイレ誘導をしている。	ユニット毎にしつらえの違うトイレが3箇所設置されている。本人の生活リズムに沿ったさりげない支援に努めている。個別の支援により布パンツに変更できている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた排便コントロールを行い水分補給や食事の工夫等を行い、支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望に合わせて入浴していただけるよう、また個別ケアにてリラックスして入浴していただけるよう支援している。入浴チェック表にて状況の把握を行い、清潔が保持できるよう支援している。	広い浴室に浴槽が2つあるが、1つを利用し個別対応をしている。入浴したい日、時間に合わせており、希望により毎日の入浴に対応している。拒まれる方には、足湯を試みたり温泉に行ったり等、対応に工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様の希望や状態を尊重し、個々に対応している。ご自身からの訴えがない方にも状態の把握をし、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット内全職員に周知徹底し常に状況把握に努めている。また、服薬事故防止の為、スタッフ間で何度も確認を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に何を好まれるのかを心がけ、ご本人の希望要望を取り入れ個別支援等を行い支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿った支援を行い喫茶や買い物等に個別対応で出掛ける。また、季節に応じて花見や紅葉狩り等機会を設け支援している。	外出支援表を作成し、まんべんなく外出できるようにしている。普段は行かない場所へも本人の希望に添えるようにしている。重度になっても家族に協力してもらいながら自宅等、本人の行きたいところへ出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員がお金を預かることなく、入居者様も大金を持っておられるような方はない。必要に応じ所持・使用ができる支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望に添えるよう必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様をご自分の家と同じような感覚暮らしの継続を感じていただけるよう必要以上の張り絵や写真は飾らないように心がけている。場所の認識ができる貼り紙は適材適所に貼っている。	静かな落ち着いた雰囲気、加湿器の使用し、温度、湿度等環境の調整ができている。季節を感じる人形飾りがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに個室をお持ちであり、一人でゆっくり過ごすことも自由に出来ている。利用者同士の交流も状況に応じ、安全にゆっくり楽しめる環境づくりに臨機応変に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを取り入れご本人が在宅時と変わらぬ環境の整備を行いその人らしい居住空間を作る工夫をしている。	昔使っていた馴染みのたんすや絵画、カーテン、ベッド等を持込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に応じ、出来ることを安全にしていただけけるよう、その都度、環境等の工夫をしている。		

事業所名 \_\_\_\_\_

作成日：平成 年 月 日 \_\_\_\_\_

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1					ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容
実施段階		( ↓ 該当するものすべてに○印 )
1 サービス評価の事前準備		①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		②利用者へサービス評価について説明した
		③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		⑤その他( )
2 自己評価の実施		①自己評価を職員全員が実施した
		②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)		①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開		①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		⑤その他( )
5 サービス評価の活用		①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		⑤その他( )